

ジャーナリズム・政策研究所  
講義要綱（2022年度）

## 【大学生・社会人のための出版・編集入門】

(火曜日・4時限講義)

下平尾直

読書や本が好きな方、自分で本や冊子を作ってみたい方、出版社に就職を希望する方におすすめの講座です。

みなさんは「出版」や「編集」という言葉から、何を連想するでしょうか。ドラマ化されるような華やかなギョーカイ？ それとも「出版不況」と呼ばれるように暗くて地道で大変な仕事？ この講座では、本を企画して読者の手元に届くまでの基礎的な知識はもちろん、出版業界の最新情報を織り込みながら、校正や広告の作成、現役で活躍中の専門家をゲストにお招きするなどして、具体的な本づくり＝編集・出版のあれこれを学びます。

\*講義内容は予告なく変更する場合があります。

下平尾 直 (しもひらお・なおし)

1968年生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程退学。コピーライター、編集者を経て、2014年に(株)共和国という、いわゆる「ひとり出版社」を創業。同時に始めたこの講座も9年目になりました。2021年には、出版卒会「第18回新聞社学芸文化賞」を受賞しました。

これまでに、藤原辰史『[決定版] ナチスのキッチン』(第1回河合隼雄学芸賞)、山家悠平『遊廓のストライキ』、川島昭夫『植物園の世紀』、菅野賢治『「命のヴィザ」言説の虚構』など68点を刊行しています。編著に武田麟太郎『蔓延する東京』、黒田喜夫『燃えるキリン』など、共著に『近代出版研究』第1号(皓星社、近刊)、『メディアの本分』(彩流社)など多数があります。

## 【読む・話す・理解し考える

### ——新聞記事を活用し就活を視野に入れたトレーニング】

(水曜日・3時限講義)

眞 下 聡

前期8回：駒澤大生のための対面講義  
後期8回：すべてオンライン講義  
※前期・後期別々に募集します。

本講座では就活対策・就活準備を念頭に、新聞記事を使って「読む・話す・理解し考える」力を養う具体的なトレーニングを行います。

ニュースを読み活用するスキルは、就活ではマスコミ以外の多くの企業でも普通に問われています。就活を離れても、これから生き抜いていく上で必ず役に立つものです。

今年は前後期8回ずつ、別々に募集し行います。内容はほぼ同じですが、前期8回は駒澤大生のための対面、後期8回はすべてオンライン（他大学生も受け入れ）で行います。

メインのターゲットは大学2年・3年生のみなさんです。もちろん就活中・就活後の4年生、新入学の1年生の方が受けても意味のある内容です。

実際に行うトレーニングは、現時点では以下のものを考えています。

1. 新聞記事の読み方のコツを学んだ上で、毎回たくさん新聞記事を読みます。
2. 記事を題材にしたり共通のテーマを設けたりして、自分で考え1分間でスピーチします。
3. ニュースを題材にしたグループディスカッションを行います。
4. ニュースを活用しやすくする「縮約」にも取り組みます。

眞下 聡（まっか・あきら） 朝日新聞ジャーナリスト学校主任研究員

1964年岩手県生まれ。89年朝日新聞入社。取材記者は鹿児島での3年のみで、西部本社・東京本社で新聞編集者を20年以上つとめました。2011年6月の朝日新聞デジタル立ち上げに関わり、デジタル編集長として全社のデジタル発信にも取り組みました。2015年5月からの教育総合本部では、大学1年生向けの作文講座で3年間に1500本以上を読み指導。就活生向けセミナーなどでも3年間に約200本のエントリーシート添削や面接・グループディスカッションを指導しました。

現在所属する朝日新聞ジャーナリスト学校では、主に社外の学生、社会人、NPO、シニアなど幅広い方々へ、新聞の読み方や文章の書き方、広報紙づくり、新聞作りについて指導しています。駒澤大学ジャナ研での講座は今年で3年目。4月から朝日新聞社発行の雑誌「月刊ジャーナリズム」で駒澤大生2人を生徒役にした就活講座「スラスラES教室」を連載中。

## 【SDGs 時代の雑誌ジャーナリズム入門】

(水曜日・4時限講義 ※後期のみ)

常井健一

新聞や雑誌の実売部数は減少傾向が止まらず、若年層のテレビ離れも進んでいます。「産業としてのジャーナリズム」、「生業としてのジャーナリスト」のあり方も過渡期にあります。

あらゆるニュースメディアの中でも「自由さ」や「やんちゃさ」が売りであった雑誌ジャーナリズムの世界では、「ウィズコロナ」やデジタル化の波に適応し、大衆性や娯楽性を保ちつつ、編集部員の遵法精神や人権意識をいかにアップデートするかが問われています。

前年度は「なぜ週刊文春はスクープを連発できるのか」と題し、週刊文春・文春オンライン両編集部に集まったニュースの職人たちがどのような自己変革を試み、新聞やテレビを凌ぐ取材力と影響力を持ちえたのか——編集部員のゲストトークから、「文春の進化論」を学びました。

今年度は、文春以外の大手出版社（雑誌に限らず、ネットメディアを含む）にも研究対象を拡げ、デジタル化時代の生き残り策に加えて、職場や企画におけるジェンダー平等など、話題の「SDGs」にも通じる意識改革の最前線に迫ります。（※女性ゲストも予定）担当する講師は、週刊誌やネットニュースの編集部にて正社員として働いた経験があり、現在は組織から独立した「フリーランス」として、育児や家事と両立しながらノンフィクションの書籍や記事を書き続けています。

本講座は、出版社やネットメディアへの就職・転職を検討中の方、既存の雇用形態や表現手法にとらわれない独自の働き方を考えているライター／編集者志望者のキャリア支援を目指します。

常井健一（とこい・けんいち）

ノンフィクションライター。1979年茨城県生まれ。大学時代からネットメディアの立ち上げに携わり、ライブドアを経て、朝日新聞出版に入社。「AERA」編集部で勤務後、2012年末に独立。「小泉純一郎独白録」（月刊文藝春秋）で編集者が選ぶ雑誌ジャーナリズム賞。『無敗の男』（文藝春秋）が大宅壮一賞、本田靖春賞、城山三郎賞の最終候補作に。最新刊は『おもちゃ 河井案里との対話』（同前）。今年の取材テーマは「女性総理誕生」

## 【コラムを書きながら考えたこと】

(木曜日・1 時限講義)

桑 原 聡

講師は隔週金曜日、産経新聞に「モンテーニュとの対話」という時事コラムを書いています。連載は5年を超えています。

本講座では、毎回2本のコラムを素材に授業を行います。具体的には、まず配布したコラムを読んでいただき、そのテーマをなぜ取り上げたのか、執筆にあたって苦労したこと、配慮したことなどについてお話しします。そのうえで、参加者のみなさんの感想を伺いながら、取り上げたテーマについて議論し、認識を深めていけたらと考えています。

ちなみに講師は、新聞社名からも想像できるように、保守的な思想の持ち主ですが、リベラルな思想をお持ちの方も大歓迎します。そういう方ともやわらかな議論ができればと考えています。自分の思想の押しつけは絶対にしません。

桑原 聡 (くわはら・さとし)

1957年山口県生まれ。産経新聞社で雑誌「正論」編集長や文化部編集委員などを務め、現在は隔週で大型コラム「モンテーニュとの対話」を連載中。10年～11年、日本大学芸術学部で「ポピュラーミュージック論」「村上春樹論」を講じる。著書に『わが子をひぎにパパが読む絵本50選』『わが子と読みたい日本の絵本50選』(ともに産経新聞出版)、「〈ドン・キホーテ〉見参! 狂気を失った者たちへ」(水声社)、共著に『酒とジャズの日々』(医療タイムス社)などがある。

## 【メディアリテラシー向上講座～事例で探るメディアのウソとホント】

(木曜日・3時限講義 ※前期のみ)

玉手 義朗

「殺人事件の容疑者として25歳の男が逮捕されました」  
テレビを見ていたら、こんなニュースが流れてきましたが、この男性は本当に犯人なのでしょうか？

「私はこの方法で15キロのダイエットに成功しました！」

バラエティ番組で、お笑い芸人が体重計の上でガッツポーズをしています。

この方法を使えば、あなたも本当に痩せることができるのでしょうか？

私たちはテレビや新聞、インターネットなど様々なメディアから発信される情報に囲まれています。

これらの情報を鵜呑みにするのではなく、自らの力で真偽を判断してゆくのがメディアリテラシーです。

講義では実際のニュースやワイドショー、バラエティ番組を材料に、正しいメディアの活用法を身につけてゆきます。

玉手 義朗 (たまた・よしろう)

1958年 茨城県生まれ 外資系金融機関などで外国為替ディーリングに従事

1992年 TBSテレビ入社

社会部記者・経済部デスク・CS放送経済ニュースのキャスター

「みのもんたの朝ズバッ！」プロデューサーなどを歴任

## 【企業と商品開発】

(金曜日・2時限講義)

坂本 律行

企業は新しい商品やサービスを作り出すために、調査を行うことによって市場や消費者の情報を収集し、分析し、商品コンセプトを練り上げ、新しい商品・サービスを市場に投入しています。

消費者の手元に商品・サービスを届けるまでのあらゆるステップがマーケティングと言えます。

この講座では、受講するみなさんが企業の商品開発の担当者としてマーケティング戦略の立案者であったなら、自身がそうした商品を販売しなければならない営業マンの立場であったならなど講義の中で考えてもらおうと思っています。講義の間だけ企業競争を生きてもらうつもりです。

そのためにはその企業の規模や歴史、経営資源を理解し、マーケティングの特徴や企業を取り巻く社会環境や価値観の変化が企業に与えた影響を簡潔に明解にまとめる必要があらうかと思います。

企業の商品開発の担当者、経営者の視点、COVID-19が企業に及ぼした視点など見てきたようにお話していきますので、大学生のみならず中高年の期待も裏切らないはずです。

坂本 律行 (さかもと・のぶゆき)

主に、マーケティングリサーチ・分析の会社で、多くのメーカー、事業会社の調査分析とマーケティングに携わってきた。1982年から通算するとマーケティングリサーチ・分析業務経験は24年。消費財メーカーでのプロダクトマーケティング経験3年／販売管理、営業企画経験が5年。株式会社坂本総合研究所代表。

## 【ジャーナリズムと憲法】

(金曜日・3時限講義)

竹田 昌弘

立憲主義の国では、主権者の国民が憲法を制定し、個人の自由や権利を守るため、憲法で公権力を規制します。国民主権と権力分立、「法の支配」がデフォルトです。立憲主義の仕組みを維持していくには、憲法に反する立法や行政処分を無効にする司法の違憲審査と、公権力を日々監視するジャーナリズム（報道・解説）が正常に機能している必要があります。

人の体にたとえると、国や社会を動かす政治権力は体中に血液を送るポンプの「心臓」と、酸素や栄養素を体内に行き渡らせる「動脈」なのに対し、司法とジャーナリズムは体内から二酸化炭素や老廃物を受け取る「静脈」のようなものかもしれません。

講義では、常に具体的に、これまでに起きた事件や裁判、今起きている社会問題などを通して、ジャーナリズムと憲法、そして立憲主義を学んでいきます。

竹田 昌弘（たけだ・まさひろ）

1961年富山県生まれ。毎日新聞から共同通信の記者に転じ、宇都宮支局や社会部に勤務。社会部次長、司法キャップなどを経て編集委員兼論説委員。つくば国際大非常勤講師や参院法務委員会参考人（裁判員法）も務めた。著書『知る、考える裁判員制度』、編・共著『憲法ルネサンス』『民事陪審裁判が日本を変える』『現代ジャーナリズム事典』など。

## 【ドキュメンタリーはこうして生まれる 悪戦苦闘する制作現場】

(金曜日・4時限講義)

新山 賢治

この講座は、テレビ・ドキュメンタリー制作の現場で企画がどのようにして生まれ、制作者はどのように悪戦苦闘して放送にたどりついたかをたどりながら、テレビ・ドキュメンタリーの果たしてきた役割を再確認したいと考えています。

講座は大きく3つの視点から構成します。

一つ目は、まず、テレビが生み出したドキュメンタリーがこんなに多彩なのかと、実感してもらうために、様々なドキュメンタリー番組を視聴します。

二つ目は、番組の制作者をできるだけ招待し、番組企画がどのように生まれ、どのように放送にこぎつけたのか、その舞台裏の悪戦苦闘を披露していただきます。

三つ目は、膨大なドキュメンタリー作品群をテレビ史の流れの中で整理し、テレビは何を生み出したのか、そしてこれからどうなっていくのか、を皆さんと共に考察し体系化して見たいと思います。

皆さんの中には、テレビ・ドキュメンタリーは見たこともない、という人も多くいるのではないかと思います。そんな方々に、テレビ・ドキュメンタリーがこんなに奥深くエネルギーに溢れているのかと体感していただきたいと思います。よろしくお願いします。

新山 賢治 (しんやま・けんじ)

1953年山口県生まれ 1977年日本放送協会近畿本部報道部入社。その後、報道局ディレクター、NHKスペシャルプロデューサーを経て、制作局長、理事、NHKエンタープライズ制作本部プロデューサー、現在は企画舎 GRIT 株式会社代表。2017年度「NHKスペシャル インパール 戦慄の記録」で芸術祭優秀賞、2018年度「劇場版 8K で解き明かすからだの中の宇宙」で科学映像技術祭内閣総理大臣賞を受賞

## 2022年度 ジャーナ研講座 時間割

	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目 13:00～14:20			コラムを書きながら考えたこと (桑原聡)	
2 時限目 14:50～16:10				企業と商品開発 (坂本律行)
3 時限目 16:30～17:50		読む・話す・理解し考える —新聞記事を活用し就活を視野に入れたトレーニング (真下聡)	<b>【前期のみ】</b> メディアリテラシー向上講座～ 事例で探るメディアのウソとホント (玉手義朗)	ジャーナリズムと憲法 (竹田昌弘)
4 時限目 18:00～19:20	大学生・社会人のための出版・編集入門 (下平尾直)	<b>【後期のみ】</b> SDGs 時代の雑誌ジャーナリズム入門 (常井健一)		ドキュメンタリーはこうして生まれる 悪戦苦闘する制作現場 (新山賢治)

## 【講義概要】

1回の講義時間は80分です。

各時限は以下の通りです。

- ・ 1時限目 13:00～14:20
- ・ 2時限目 14:50～16:10
- ・ 3時限目 16:30～17:50
- ・ 4時限目 18:00～19:20

講義は前期・後期とも8回で構成されています。

2学期制です（各学期は9週間。間に1週間の休講期間があります）。

前期・・・5月17日（火）～7月15日（金）

後期・・・9月20日（火）～11月18日（金）

※6月14日(火)～17日(金)、11月1日(火)～4日(金)は休講です。

## 【開講方式】

学生は対面講座、一般受講者はオンラインにて開講。受講者には講義のURLをメールなどで連絡します。

オンラインはZOOMでの開講を予定しておりますので、パソコンやタブレット、スマホなどが必要です。また、通信費用は受講生の負担となりますので、wifi環境などは各自お揃えください。

開講方式や必要機材、申し込み方法などの詳しい情報は、ジャーナリズム・政策研究所のホームページでご確認いただけます。最新の情報をぜひご入手ください。

\*右のQRコードをスマホなどで撮るとリンクします。

下のアドレスもご利用ください。

<https://www.komazawa-u.ac.jp/research/labo/kjps/lecture-guidance.html>



駒澤大学ジャーナリズム・政策研究所 令和4(2022)年度 講義カレンダー(全16回)

前期:5月17日～7月15日

火	水	木	金
5月17日	5月18日	5月19日	5月20日
火①	水①	木①	金①
5月24日	5月25日	5月26日	5月27日
火②	水②	木②	金②
5月31日	6月1日	6月2日	6月3日
火③	水③	木③	金③
6月7日	6月8日	6月9日	6月10日
火④	水④	木④	金④
6月14日	6月15日	6月16日	6月17日
6月21日	6月22日	6月23日	6月24日
火⑤	水⑤	木⑤	金⑤
6月28日	6月29日	6月30日	7月1日
火⑥	水⑥	木⑥	金⑥
7月5日	7月6日	7月7日	7月8日
火⑦	水⑦	木⑦	金⑦
7月12日	7月13日	7月14日	7月15日
火⑧	水⑧	木⑧	金⑧

後期:9月20日～11月18日

火	水	木	金
9月20日	9月21日	9月22日	9月23日
火①	水①	木①	金①
9月27日	9月28日	9月29日	9月30日
火②	水②	木②	金②
10月4日	10月5日	10月6日	10月7日
火③	水③	木③	金③
10月11日	10月12日	10月13日	10月14日
火④	水④	木④	金④
10月18日	10月19日	10月20日	10月21日
火⑤	水⑤	木⑤	金⑤
10月25日	10月26日	10月27日	10月28日
火⑥	水⑥	木⑥	金⑥
11月1日	11月2日	11月3日	11月4日
11月8日	11月9日	11月10日	11月11日
火⑦	水⑦	木⑦	金⑦
11月15日	11月16日	11月17日	11月18日
火⑧	水⑧	木⑧	金⑧

※ 教場：深沢キャンパス講義室2-1（駒大生のみ）／オンライン（ZOOM）

※ 教場は、学会などの都合により変更になる場合もございます。

※ 休講の際の振替講義は原則として行いません。

※ 大学の授業実施カリキュラムに則った講義スケジュールのため、祝日の開講・平日の休講が、混在していることがあります。ご注意ください。

駒澤大学ジャーナリズム・政策研究所事務局  
TEL 03-6381-8901  
受付時間：月～金10:00～12:30／13:30～17:00  
※大学行事に則り変則的な休業日がございます